

CITIZEN

2018年度（2019年3月期）

通期決算説明会

シチズン時計株式会社

2019年5月13日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

本日は、ご多用のところ、当社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
ございます。

早速ですが、2018年度通期決算につきまして、ご説明させていただきます。

2018年度通期決算のポイント

- 時計事業
完成品に回復感。ムーブメント販売は伸び悩み
- 工作機械事業
一部地域で減速感が強まるも、増収増益
- 特別損失を計上
 - － Frederique Constant関連 49億円
 - － 中国工場の再編関連 23億円
 - － 海外販社統合関連 9億円

2

CITIZEN

始めに、今回の決算の主なポイントについて説明させていただきます。

時計事業につきましては、下期以降の完成品の需要回復により売上を伸ばしましたが、期初の遅れとムーブメント販売の伸び悩みを補うには至らず、売上は前年実績に僅かに届かず、減収減益となりました。

工作機械事業は、足元の受注は減速感もありますが、期初からの高水準の受注が寄与し、大幅な増収増益となりました。

全事業の連結業績としては、増収減益となっております。

一方、当期純利益につきましては、特別損失の計上の影響し、減益となっております。

Frederique Constantブランドに関しては、主に、売上拡大を見込んでいた北米地域において、販売チャネルの整理などに時間が掛かり、買収時の計画と実績に乖離が生じたため、のれんおよび無形資産の減損損失として、49億円計上いたしました。当初の想定より遅れてしまいましたが、当社の販売網にFrederique Constantブランドをのせる体制はほぼ整いましたので、今後、売上拡大を加速させて参ります。

また前回の決算で公表しました中国時計製造工場の再編に伴う損失として23億円、その他、海外販社の統合に伴う費用等を含め、合計で101億円の特別損失を計上しております。

2018年度 通期連結業績概要

(単位：億円)	2017年度 実績	2018年度 実績	前年同期比	
			増減率	増減額
売上高	3,200	3,216	+0.5%	+16
営業利益	249	224	▲10.1%	▲25
営業利益率	7.8%	7.0%	-	-
経常利益	266	266	▲0.2%	▲0
親会社株主に帰属する当期純利益	193	133	▲30.7%	▲59
為替レートの影響	¥111/USD ¥129/EUR	¥111/USD ¥129/EUR	-	

為替の影響	売上高	営業利益
USD	+13.0億円	+3.0億円
EUR	+2.0億円	+0.7億円

(1円の円安 年間)

3

CITIZEN

それでは、通期業績概要を説明させていただきます。

売上高は、3,216億円、前年比0.5%の増収、

営業利益は、224億円、工作機械事業が増益となったものの、それ以外の事業が減益となり、前年比10.1%の減益となりました。

営業利益率は、7.0%となりました。

経常利益は、266億円。為替差益の計上の他、受取配当金や持分法投資利益の増加があり、前年比0.2%減とほぼ前年並みに留まりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益が21億円あったものの、先ほどご説明した通り、特別損失が増加し、前年比30.7%減の133億円となり、全体では、増収減益の結果となりました。

セグメント別業績推移 売上高

(単位：億円)	2017年度 実績	2018年度 実績	前年同期比	
			増減率	増減額
時計事業	1,637	1,635	▲0.1%	▲1
工作機械事業	640	721	+12.7%	+81
デバイス事業	655	608	▲7.3%	▲47
電子機器事業	205	193	▲6.1%	▲12
その他の事業	61	58	▲4.5%	▲2
合計	3,200	3,216	+0.5%	+16

4

CITIZEN

続いて、セグメント別の売上高について説明させていただきます。

時計事業につきましては、前期比 0.1%減の 1,635億円。

工作機械事業につきましては、前期比 12.7%増の721億円と、増収。

デバイス事業につきましては、前期比 7.3%減の608億円と、減収となりました。

電子機器事業につきましては、前期比 6.1%減の193億円。POSプリンターやバーコードプリンターが堅調に推移したものの、フォトプリンターの売上減、大型プリンターの撤退の影響もあり、減収となりました。

その他の事業につきましては、宝飾製品が需要の低迷を受け減収となる等、前期比 4.5%減の58億円となりました。

セグメント別業績推移 営業利益

(単位：億円、%：営業利益率)	2017年度	2018年度	前年同期比	
	実績	実績	増減率	増減額
時計事業	161 (9.9%)	124 (7.6%)	▲23.1%	▲ 37
工作機械事業	104 (16.3%)	130 (18.1%)	+25.3%	+ 26
デバイス事業	27 (4.2%)	25 (4.2%)	▲8.6%	▲ 2
電子機器事業	5 (2.5%)	4 (2.3%)	▲14.6%	▲ 0
その他の事業	3 (5.1%)	1 (2.5%)	▲53.0%	▲ 1
消去又は全社	▲ 53	▲ 62	-	▲ 9
合計	249 (7.8%)	224 (7.0%)	▲10.1%	▲ 25

続いて、セグメント別の営業利益です。

時計事業につきましては、前期比23.1%減の124億円、

工作機械事業は、前期比25.3%増の130億円、

デバイス事業は、前期比8.6%減の25億円、

電子機器事業は、前期比14.6%減の4億円となりました。

2019年度 通期連結業績予想

(単位：億円)	2018年度	2019年度	前年同期比	
	実績	予想	増減率	増減額
売上高	3,216	3,180	▲1.1%	▲36
営業利益	224	200	▲10.8%	▲24
営業利益率	7.0%	6.3%	-	-
経常利益	266	220	▲17.3%	▲46
親会社株主に帰属する当期純利益	133	145	+8.5%	+12
為替レート	¥111/USD ¥129/EUR	¥110/USD ¥120/EUR	-	-

6

CITIZEN

続きまして、2019年度の連結業績予想につきましてご説明します。

売上高は、前期比で1.1%減となる3,180億円としました。時計事業は増収を計画しておりますが、工作機械、デバイス事業などは減収の見込みとしております。

営業利益は、前期比10.8%減の200億円、主に工作機械事業の減収による減益が影響する見込みです。

経常利益につきましては、220億円と前期比17.3%の減益、

当期純利益につきましては、145億円と、特別損失が減少する見通しであることから、8.5%の増益を見込んでいます。

なお、為替レートは1USD=110円、1EUR=120円を想定しております。

セグメント別 通期売上高・営業利益予想

売上高

(単位：億円、%：営業利益率)	2018年度	2019年度	前年同期比	
	実績	予想	増減率	増減額
時計事業	1,635	1,670	+2.1%	+35
工作機械事業	721	670	▲7.2%	▲51
デバイス事業	608	590	▲3.0%	▲18
電子機器事業	193	190	▲1.7%	▲3
その他の事業	58	60	+3.0%	+2
合計	3,216	3,180	▲1.1%	▲36

営業利益

時計事業	124 (7.6%)	130 (7.8%)	+4.5%	+6
工作機械事業	130 (18.1%)	105 (15.7%)	▲19.7%	▲25
デバイス事業	25 (4.2%)	21 (3.6%)	▲17.4%	▲4
電子機器事業	4 (2.3%)	5 (2.6%)	+14.1%	+1
その他の事業	1 (2.5%)	3 (5.0%)	+104.9%	+2
消去又は全社	▲62	▲64	-	▲2
合計	224 (7.0%)	200 (6.3%)	▲10.8%	▲24

こちらは、セグメント別の通期売上高、営業利益の予想です。

時計事業は増収増益、工作機械、デバイス事業は減収減益の予想といたしました。

この後、主要事業の概況を説明いたします。

時計事業 通期業績推移

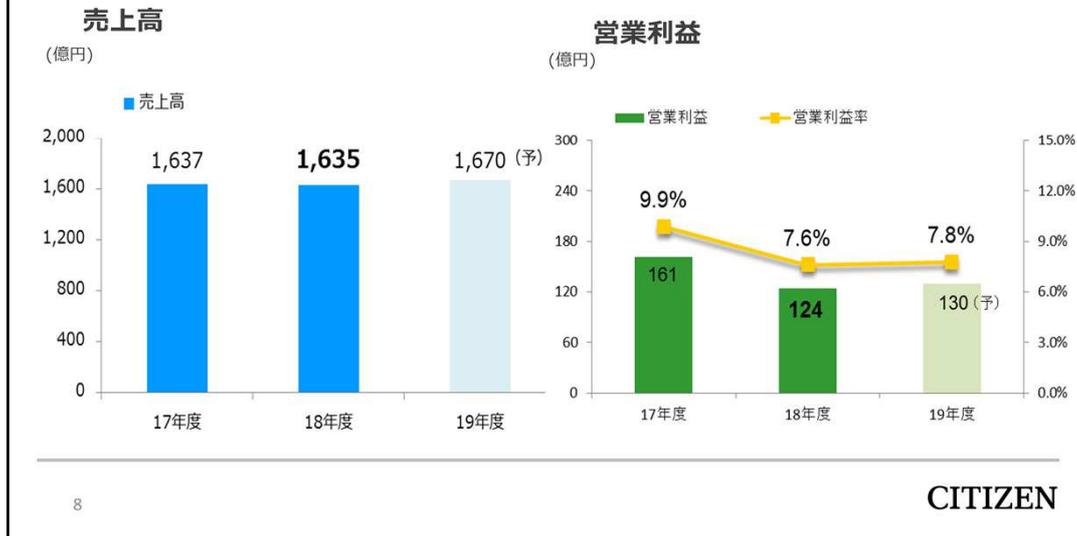
<完成品販売>

海外市場：欧州市場の低迷を北米・アジア市場の販売拡大が補い、増収

国内市場：期初の不振を、xC・ATTESA・PROMASTER等の主力製品が牽引し、横ばい

<ムーブメント販売>

高付加価値品を中心にアナログクォーツムーブメントが伸び悩み、減収



それでは、時計事業から説明いたします。

2018年度業績につきまして、完成品販売は、上期までは中価格帯の需要が回復せず伸び悩みましたが、第3四半期以降、主要市場の北米や国内を中心に売上を伸ばし増収となりました。

北米市場は、デパート等の主要流通が復調傾向を示す中、インターネット流通も継続して拡大した結果、CITIZENブランド、BULOVAブランド共に拡大し、増収となりました。

欧州市場は、長引く政治不安から先行き不透明感が強まる中、流通再編や消費低迷に苦しむイギリスの不振等が響き、減収となりました。

アジア市場は、第3四半期に売上が減少したものの、第4四半期は再び増収に転じ、通期で増収となりました。

国内市場は、第3四半期以降、主力のxC、ATTESA、PROMASTER等の中価格帯主力製品が売上を牽引したことで、前期比横ばいとなりました。

ムーブメント販売については、機械式ムーブメントが堅調に推移する一方で、主力のクォーツムーブメントの需要回復は依然として弱く減収となりましたが、減収幅は徐々に縮小傾向にあり、第4四半期は増収に転じました。

また、第4四半期では、ムーブメントの減産を更に進めたため、営業利益低下の主要要因のひとつになっています。

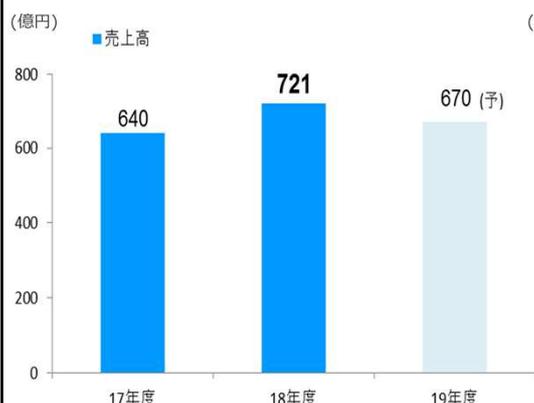
2019年度予想については、市場によって強弱感が見られるものの、全体的に緩やかな回復傾向を辿る見通しであり、売上高は前期比2.1%増の1,670億円。営業利益は前期比4.5%増の130億円と、増収増益を予想しています。国内市場は引き続き主力の中価格帯を中心に堅調に推移する見通しである他、北米市場についてもシェアアップを狙い、増収を見込んでいます。欧州市場は、不透明感があり、横ばいに留まると見ております。アジア市場は、引き続き中国を中心に堅調に推移する見通しです。

ムーブメント販売については、明確な回復は見込んでいないものの、機械式の需要増や下期からのスマートウォッチムーブメントの出荷を計画していることから増収に転じる見通しです。ムーブメントの生産調整は第1四半期まで継続する予定としております。

工作機械事業 通期業績推移

海外市場：欧州・米州市場を中心に好調に推移し、増収
国内市場：一部に一服感が見られるも、幅広い業種で好調を維持し、増収

売上高



営業利益



9

CITIZEN

続いて、工作機械事業です。

今期は、国内外の好調な受注に加え、独自技術である低周波振動切削技術(LFV)の搭載機種拡大により、大幅な増収増益となりました。

第4四半期の生産は概ね順調に推移したものの、据え付けのキャパティ等の問題もあり、予想値に対しては未達となっております。

米国は、医療、ジョブショップ関連を中心に堅調に推移した他、欧州も、自動車関連を中心にドイツやイタリアをはじめとして好調を維持し、増収となりました。

また、アジアについては、上期は自動車関連が牽引して好調に推移し、通期では横ばいとなりました。

国内は、自動車、建機、医療など、幅広い業種で好調を維持しました。

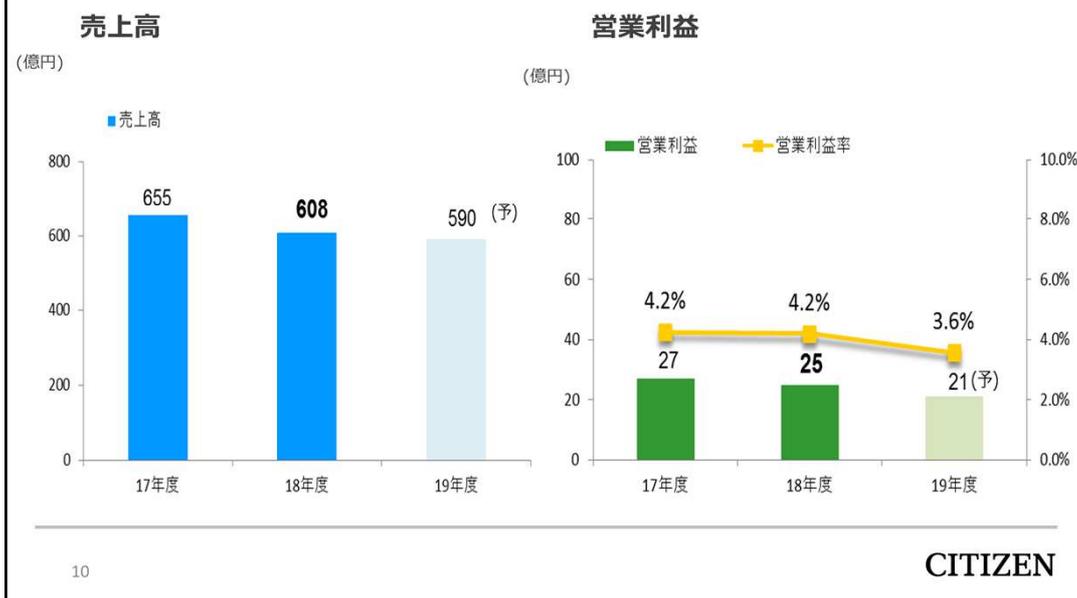
営業利益につきましては、製造のフル稼働の効果に加え、LFV搭載機種の拡大により利益率が向上し、増益となりました。

2019年度の業績につきましては、

受注がピークアウトしたことにより減収減益を予想していますが、医療向けの需要が堅調である他、LFVの搭載機種を更に拡大することにより、減収幅を最小限におさえていくつもりです。

デバイス事業 通期業績推移

精密加工部品：スイッチが伸び悩んだが自動車部品が堅調さを保ち、増収
 オプトデバイス：チップLEDが売上を維持したが、照明向けLED等で収益重視の取り組みを実施し、減収
 その他部品：水晶デバイス等の不振により、減収



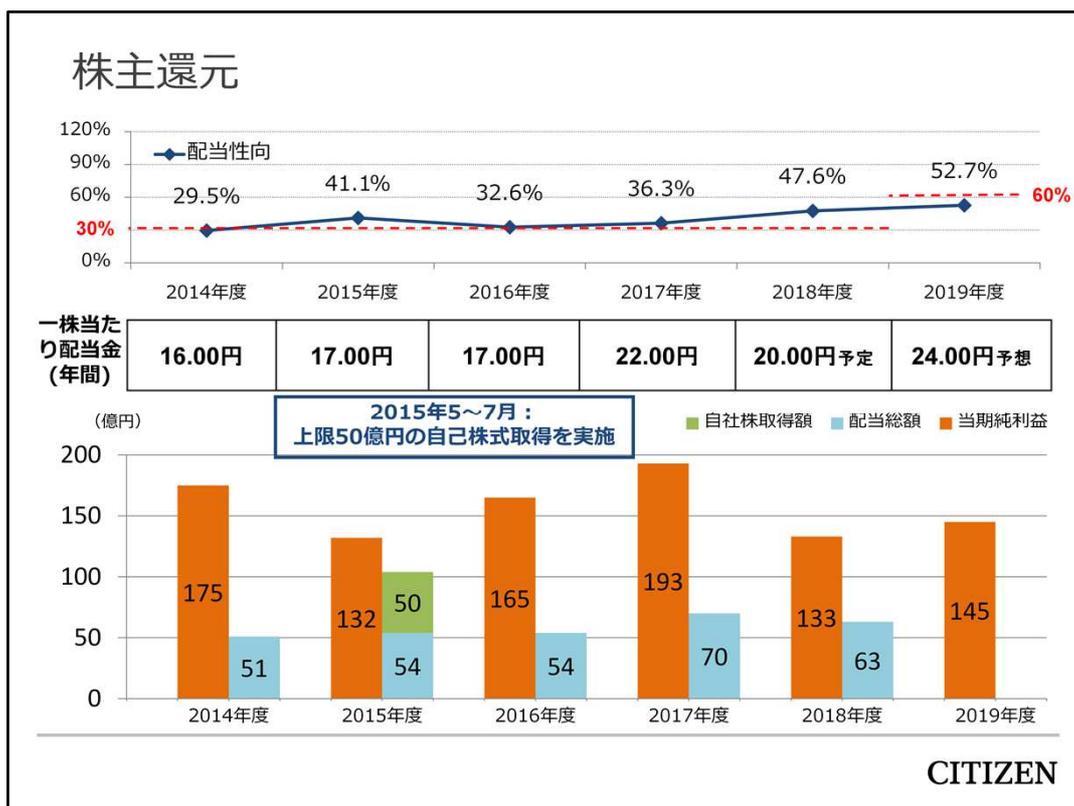
デバイス事業について、説明させていただきます。

自動車部品については、第4四半期において中国市場向け部品の売上が落ちたものの、通期では増収を維持しました。スイッチも、第4四半期ではスマートフォン市場の低迷を受け、売上が伸び悩みましたが、通期で増収となりました。

オプトデバイスについては、チップLEDの車載向け売上が第4四半期に回復した一方で、照明向けLEDは、価格競争の中、採算重視の取り組みを進めた結果、減収となりました。

その他部品については、水晶デバイスが市況低迷を受け、通期を通して苦戦し、減収となりました。

2019年度の業績予想ですが、自動車部品が下期に向けて回復し増収、スイッチは前期並みを見込んでいます。チップLEDは、PC等電子機器向けが牽引し増収、照明用LEDはモデル数を削減するなど損益重視の取り組みを更に進めることもあり減収、バックライトは売上減により減益となる見込みです。その他の部品では、モーターは堅調な売上を維持、セラミック部品は増収を予定しています。



最後に、株主還元についてご説明いたします。

2018年度の年間配当は、20円を予定しており、変更ございません。

2019年度は、先日公表いたしました新中期経営計画で示しました通り、対象事業年度に係る「株主還元性向」を3年間平均で60%以上とすることを基本方針に基づき、年間配当は、安定配当と来期の業績動向等を勘案し、1株当たり24円の予定です。

CITIZEN

私からの説明は以上となります。
ご清聴ありがとうございました。

貸借対照表

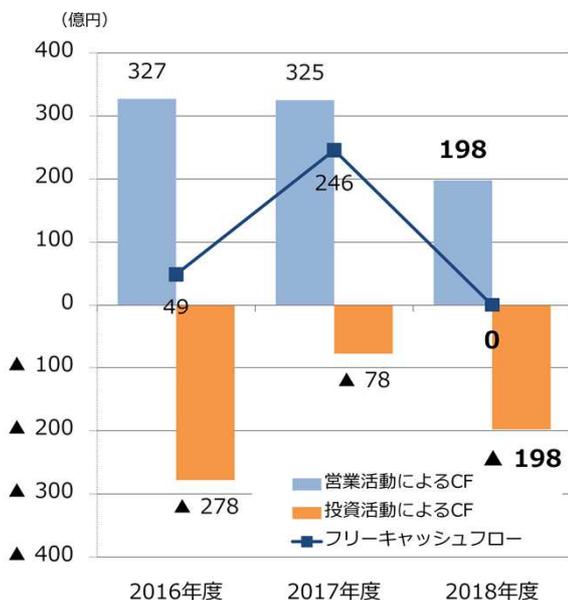
参考資料

(単位：億円)	2018年 3月末	2019年 3月末	前年度 末比 増減額	(単位：億円)	2018年 3月末	2019年 3月末	前年度 末比 増減額
流動資産	2,529	2,589	+59	負債	1,461	1,463	+1
現金及び 預金	920	868	▲ 52	有利子 負債	490	510	+20
棚卸資産	905	982	+76				
固定資産	1,569	1,549	▲ 19	純資産	2,637	2,675	+38
有形固定 資産	849	896	+46	株主資本	2,409	2,468	+59
投資有価証券	460	399	▲ 60	為替換算調整勘定	20	33	+12
資産合計	4,099	4,139	+40	負債・純資産 合計	4,099	4,139	+40

CITIZEN

キャッシュフロー計算書

参考資料



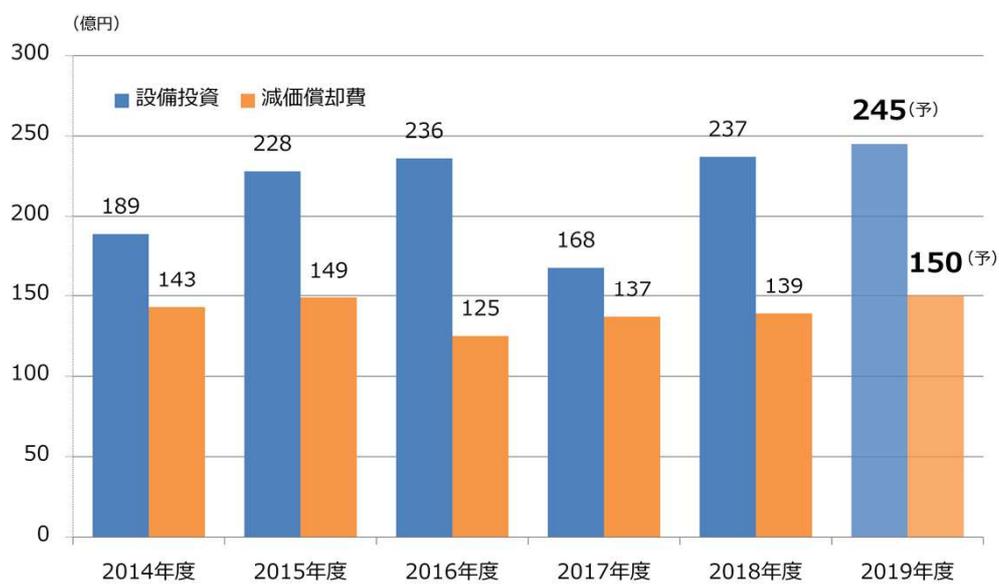
(単位：億円)

	17 通期	18 通期	前年 同期比 増減額
営業活動によるCF	325	198	▲126
投資活動によるCF	▲78	▲198	▲119
フリーキャッシュフロー	246	0	▲246
財務活動によるCF	▲117	▲58	+58
現金及び現金 同等物残高	906	845	▲61

CITIZEN

設備投資・減価償却費

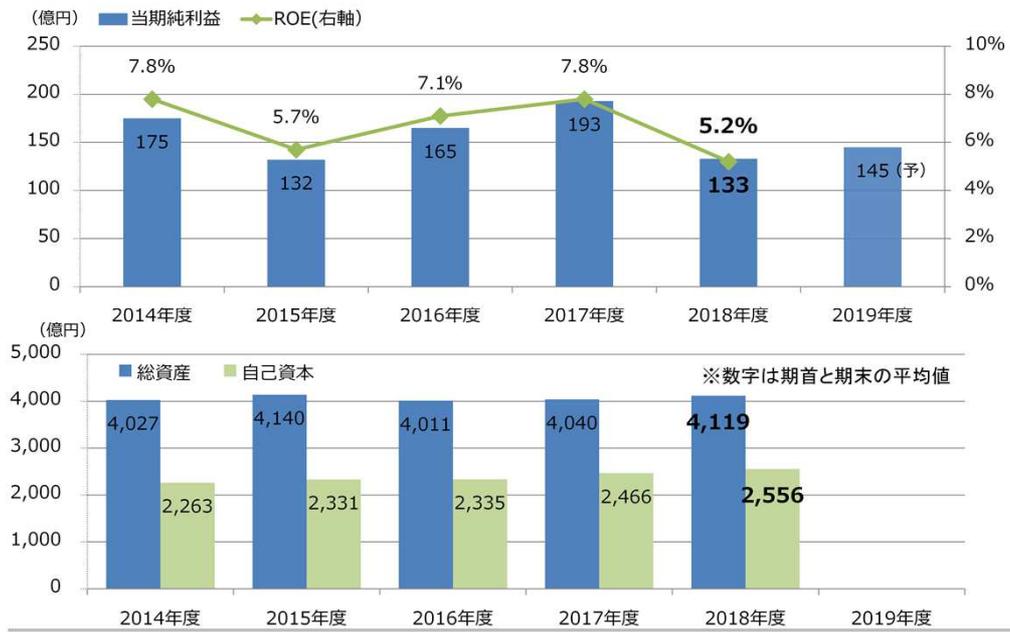
参考資料



CITIZEN

ROE

参考資料



CITIZEN